

燕市下水道事業経営改善戦略の概要（計画期間：令和 7 年度～令和 16 年度）

第 1 章 はじめに 策定の経緯、計画の位置づけ、計画期間について記載

- ・ 現行の経営戦略を全面的に見直し経営基盤の強化等を目指し策定。
- ・ 第 3 次燕市総合計画を反映し、下水道各種関係計画と整合を図り策定。
- ・ 計画期間は令和 7（2025）年度から令和 16（2034）年度の 10 年間。

第 2 章 事業概要 下水道事業概況、現状分析を記載

- ・ 現在の処理区別の整備状況や現行使用料の状況などについて記載。
- ・ また、経営比較分析表を活用した現状分析を実施。

第 3 章 将来の事業環境 人口や使用料収入などの将来の事業環境を記載

将来の環境予測	（行政区域内人口） 令和 25（2043）年度では、令和 5（2023）年度比で約 20.4% 人口が減少。 （処理区域内人口、水洗化人口、有収水量、使用料収入） 公共下水道事業：令和 10（2028）年度まで増加、その後減少。 特定環境保全公共下水道事業：年々減少。
施設の見通し	管渠施設：令和 27（2045）年度以降改築、更新需要が高まる。 下水終末処理場：今後 10 年程度で更新需要がピークを迎える。
組織の見通し	改築・更新等の時期に応じた職員配置の調整が必要。
収入の見通し	今後一般会計繰入金は増加傾向となる一方、一般会計の財源にも限度があるため、一般会計の負担の軽減を図る必要がある。

第 4 章 将来の経営課題 第 3 章を踏まえた経営課題について記載

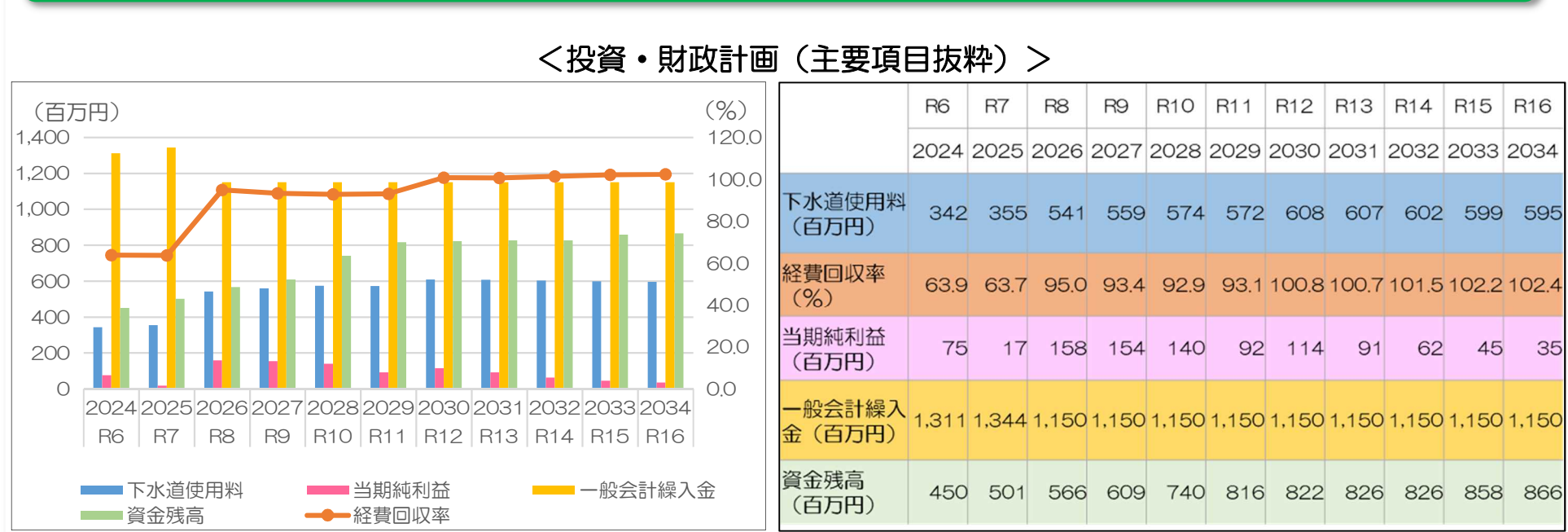
- 【現状予測を踏まえた課題】
- ・ 本市の実質的な使用料単価は総務省基準の 150 円/㎡（税抜）を下回り、その差額を一般会計繰入金で補填している状況。
 - ・ 現状、経費回収率は 100%を下回り、使用料で賄えていない経費は一般会計繰入金で補填。
 - ・ 一般会計繰入金総額は基準内繰入金が増加傾向となり、仮に令和 6（2024）年度の一般会計繰入金総額を上限に将来推計を行った場合、令和 8（2026）年度以降収益的収支の当期純利益は赤字となる。
 - ・ 一般会計繰入金の増加により一般会計や市民サービスに影響が及び可能性がある。

第 5 章 経営の基本方針

第 4 章の経営課題等を踏まえ、経営の基本方針及び経営目標を設定

基本方針の設定	
（1）経営の安定化	既整備地域への接続促進やし尿受入整備、当期純利益の確保、適正な使用料設定、一般会計の負担低減等を図る。
（2）下水道未普及の解消	令和 10（2028）年度までの概成を目指す。
（3）施設管理の最適化	ストックマネジメント計画に基づき、改築更新を実施。

第 6 章 投資・財政計画（収支計画） 経営目標達成に向けた投資・財政計画を策定、下水道経営の健全化に向けたロードマップを策定



＜下水道経営の健全化に向けたロードマップ＞

項目	年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
経営戦略期間											
経営改善戦略						◎					
使用料の検討		◎				◎					
使用料の改定			◎				◎				

経営目標	項目	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
		決算値	予算値	目標値				中間目標値	目標値				最終目標値
	経費回収率	61.7%	63.9%	61.7%	80%以上	80%以上	80%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	100%以上
	他補会助計金	378百万円	93百万円	10%以上削減	20%以上削減	30%以上削減	40%以上削減	50%以上削減	60%以上削減	70%以上削減	80%以上削減	90%以上削減	ゼロ

経営目標の設定		
項目	令和11（2026）年度	令和16（2034）年度
経費回収率	90%以上	100%以上
水洗化率	77.5%以上	80%以上
当期純利益	黒字の維持	
他会計補助金	50%以上削減	ゼロ

第 7 章 経営改善戦略の事後検証、更新等に関する事項 進捗管理や効果検証について方針を記載

